

<推奨コース>

Aコース 館山駅～安房高周辺～鶴谷八幡宮～子安神社 [距離] 約 2.3km [所要時間] 徒歩約40分

館山駅 9分 600m → **13** 4分 250m → **11** 8分 580m → **7** 鶴谷八幡宮 4分 400m → **5** 1分 50m → **4** 4分 350m 子安神社

<おすすめスポット>



マキのつらなり

房総半島南部では、生垣で屋敷の周囲を囲んだ集落景観が見られます。居住空間を四方で囲んだ生垣には、主に 20mほどの樹高になり千葉県のみならず、伊豆半島でもあるイヌマキが使われています。イヌマキは房総半島から沖縄諸島南端まで分布するマキ科(針葉樹)に属する暖地性の種であり、房総半島の分布が北半球の北限域といわれます。昔から多くの家がイヌマキやモチノキなどの生垣をめぐらせた理由は、防風や防砂の役割だけでなく、防暑や防寒のため、さらには防火や外敵防除の機能をもたせたからといわれています。なかでも冬季に目立つ西風の時期は、塩分を含んだ強風が樹木の植生に影響があり、防風効果が高いイヌマキが使用されています。イヌマキの生垣は「ちば文化的景観」にも認定され、地域の貴重な財産になっています。

**4** 子安神社(こやすじんじゃ)

湊の鎮守。天正 18 年(1890 年)には子易大明神として記録されています。修験の徳蔵院が代々別当として神社の管理をしていました。子安の名から安産の信仰があり、底の抜けた袋が奉納されており、境内には「青面金剛」の文字を刻んだ庚申塔があります。寛政 12 年(1800 年)の庚申の年に湊村の庚申講で建立したもので、手水石は文政 13 年(1830 年)に相州西浦賀の鈴木弥吉という人物が奉納しています。境内周辺は古墳時代から平安時代の土師器が出土するところで、向原遺跡と名づけられています。

**7** 鶴谷八幡宮(つるがやはちまんぐう)

養老元年(717 年)に今の三芳村府中に創建と伝えられ、品陀和氣命(ほんだわけのみこと)ほか三柱が祀られています。鎌倉時代に現在地に移され、安房国の総社となりました。毎年9月の例祭には安房神社をはじめ、近郷 10 社の神輿の出祭があり、六所祭(国司祭)が行われます。拝殿正面の格天井に埋め込みの「百態龍」は宮彫師、後藤利兵衛義光の作です。また、本殿、棟札、刀剣銘「守家」などが伝えられています。昭和 15 年4月(1940 年)には、県社となり昭和 53 年(1978 年)現社名に変更されました。創建の際、国司自ら祭祀を執り行ったと伝えられ、六所祭(国司祭)が始まったといわれています。

<お問合せ> 館山市観光協会 館山市北条 1879-2(JR館山駅東口) TEL 0470-22-2000